

科目名	体育	授業時数	週 2	単位	2	学年	
		コース・学年	研志	コース			
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志	コース
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	<i>S</i> 使える 社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。 <i>A</i> わかる 各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。 <i>B</i> できる 健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。 <i>C</i> する 保健に関する重要語句が理解できる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。 自身の現状を適切に把握し、用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。 適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。 語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。 様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。 わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。 授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康、性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康、医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全を守る活動 働くことと健康、働く人の健康づくり

何で学ぶか (教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育 [改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート [改訂版]』 プリント クロムブック

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志 コース	
目標	幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える ・読譜能力を身につけ歌唱・リコーダーの演奏ができる。 ・音楽の歴史的背景を理解し鑑賞することができる。	楽曲のイメージと自己のイメージを結び付け、表現するための技能を身につけることができる。	・グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。
	<i>A</i> わかる ・音楽の様々な表現方法を知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティケレーションを意識した表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。 ・積極的に音楽を鑑賞することができる。
	<i>B</i> できる ・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・♯や♭のあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	<i>C</i> する ・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち、合唱やリコーダーアンサンブルに喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 歌唱「見上げてごらん夜の星を」 実技テスト
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」 実技テスト 期末テスト
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」 実技テスト

何で学ぶか (教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	美術 I	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志	コース
目標	幅広い美術活動を通して美術を愛好する心情を育むと共に、美術の歴史と大作画家の名作に触れることで美術文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	正確な描写、明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
	A わかる	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形、材質、トーンの表現ができる。	デッサン、彩色学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて、表現することができる。	デッサン、クロッキー、鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち、描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	提出作品 学習シート 考査	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 名画鑑賞 2 ダビンチの人生とその作品、背景と作品の模写 フェルメールの人生とその作品、背景と作品の模写
2 学期	色彩構成 ポスター作製 砂絵の世界 1 期末考査
3 学期	砂絵の世界 2 オリジナル作品の制作 まとめ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック、水彩画用具(中学校で使ったものを利用してかまいません)。 それぞれの題材や活動に必要な材料は、半期ごとに購入してもらいます。
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ・作品鑑賞、作品、作者説明 作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する(YouTubeなどの映像コンテンツの使用)
--

科目名	書道Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志	コース
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 標準	<i>S</i> 使える 漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身に付け表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
	<i>A</i> わかる 漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
	<i>B</i> できる 漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
	<i>C</i> する 日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法	提出作品 学習シート 考査	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅰ ・ 漢字の書の学習 (行書) 「集王聖教序」 ・ 漢字の書の学習 (行書) 「蘭亭序」 ・ 漢字の書の学習 (楷書) 「風信帖」
2 学期	・ 漢字の書の学習 (行書) 「争坐位文稿」 ・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅱ ・ 期末考査
3 学期	・ 仮名の書の学習 ・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅲ

何で学ぶか (教材)

教育図書『書Ⅰ』 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料
--

どのように学ぶか (授業方法など)

一斉授業 (講義・実技) グループ学習 (相互批評等) 鑑賞学習
--

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア・教育・普通
目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
	近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
	文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	[随想] 感性的な表現の読み取り方 [小説 (1)] 小説の基本的な読み方 [評論 (1)] 評論文の基本的な読み方
2 学期	[評論 (2)] 論の展開、論拠、要旨を的確にとらえる。 [小説 (2)] 小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句] 表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう [詩] 詩の構成に沿って、作者の心情をつかむ。
3 学期	[評論 (3)] 論の展開に沿って適切に読み取る。 [評論 (4)] 対比による論の展開を理解する。 [小説 (3)] 長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。

何で学ぶか (教材)

明治書院『新 高等学校 現代文B』
明治書院『新 高等学校 現代文B 学習課題ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	数学Ⅰ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア・教育・普通
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	応用問題において問題の意図を適切に理解し、公式を応用して解くことができる。	事象を多面的に深く理解し、他者に的確に説明することができる。	様々な分野の考え方を取り入れて解答することができる。
	A わかる	標準問題において適切な公式を選択し、解くことができる。	1つ1つの考え方の根本を理解し、思考のイメージを持ちながら問題を解くことができる。	自ら問題を解き、わからないときは他者に聞いたり調べたりして解答することができる。
	B できる	基本的な公式を、教科書・参考書を用いながら解くことができる。	適切な用語・記号を使い、論理的な解答することができる。	問題の類題の解答や、解説などを参考に、問題を解くことができる。
	C する	解答、解説を参考にしながら、類題を解くことができる。	問題文の意味を理解し、解答解説を参考にしながら解答することができる。	与えられた課題に取り組む、期限内に提出物を提出することができる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 1次不等式 集合と命題
2 学期	三角比 正弦定理、余弦定理 場合の数と確率
3 学期	整数の性質

何で学ぶか (教材)

数研出版『改訂版 最新数学Ⅰ』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学Ⅰ+A』 プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キヤ・保育・看護
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	<i>S</i> 使える 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思考・表現することができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	<i>A</i> わかる 相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	<i>B</i> できる 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 基本文や基本問題を読んだり、解くことができる。	新出単語や表現について理解し、適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	that節 to+不定詞
2 学期	分詞構文 形式主語 関係代名詞what
3 学期	過去完了形

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication Ⅱ』 数研出版 COMET コメット英単語 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志	コース キャリア・教育・意識
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	<i>S</i> 使える	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組み追及している。
	<i>A</i> わかる	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
	<i>B</i> できる	世界の歴史についての基本的な流れを理解し、その知識を身につけている。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する	世界の歴史についての基本的な事柄を理解している。	時代の変化を学ぶことで、今を生きる自分が過去の歴史とつながっていることを知る。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか (教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	日本史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア・保育・看護
目標	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く。近現代の日本史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する。近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける。主体的な歴史学習を通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を意欲的に身に付け、近代社会が成立し発展する過程を十分に理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。また、得られた資料や情報を効果的に活用し、討議を行うことができる。
基	わかる 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、考察することができる。また、得られた資料や情報を活用し、討議を行うことができる。
準	できる 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を概ね理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、得られた資料や情報を活用し、グループ内で質問することができる。
	する 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程をある程度理解することができる。	歴史的に形成された諸課題についての考察や判断の過程や結果を、表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、得られた資料や情報を活用し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成
2 学期	東アジア世界の変動と日本 二つの世界大戦と日本
3 学期	第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本

何で学ぶか (教材)

日本史A (東京書籍)
日本史Aワークノート (東京書籍)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
グループ討議

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア・教育・習熟
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第3章 体内環境と恒常性
3 学期	第4章 植生の多様性と生態系

何で学ぶか (教材)

第一学習社 改訂版 新生物基礎 (319)
第一学習社 ネオバルノート生物基礎

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動

科目名	商品開発	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア
目標	商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	商品企画・開発し、流通させるために必要な技術、商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け、活用することができるか。	商品開発に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断できる。	商品活動に関する諸活動を主体的に考える、実践的な態度を身に付けているか。
基	顧客満足を実現することの重要性について理解しているか。	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深めているか。	消費者の視点に立った商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。
準	商品開発に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	商品開発について関心を持って取り組むことができる。
準	商品開発に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	商品の多様化 商品開発の意義と手順 環境分析
2 学期	商品開発の意思決定と開発テーマの決定 市場調査 商品コンセプトの立案と商品企画書の作成
3 学期	商品の仕様と詳細設計 試作品の作成と評価 開発商品のテスト 事業計画の立案

何で学ぶか (教材)

教科書
商品開発 実教出版
問題集
商品開発 実教出版

どのように学ぶか (授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動

科目名	ビジネスマナー	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア
目標	ビジネスに関するマナーとコミュニケーションの知識・技術を習得し、ビジネスの諸活動における円滑な人間関係を築く能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える 日常生活の場面で応用することができる。	日常生活でのマナーに関する知識の活用方法を適切に判断し、コミュニケーション力を身につけることができる。	ビジネスマナーを理解し、効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	<i>A</i> わかる 挨拶や好感を与える立ち居振る舞い、身だしなみの重要性を理解する。	マナーやコミュニケーションについての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	ビジネスマナーやコミュニケーションについて主体的に考え、発表し合うことができる。
	<i>B</i> できる ビジネスマナーに関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	ビジネスマナーとコミュニケーションの諸活動に広い関心がある。
	<i>C</i> する ビジネスマナーに関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ビジネス社会の常識 働くことの意義 社会での人間関係 検定・校内漢字テスト対策
2 学期	仕事をするための基礎知識 第一印象、身だしなみ 仕事のすすめ方 名刺交換、電話応対 敬語、クッション言葉
3 学期	ビジネスマナーの基本 訪問、来客のマナー 社会人としての付き合い

何で学ぶか (教材)

教科書 ビジネスマナー 早稲田教育出版

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ活動 実習

科目名	一般教養演習	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	キャリア
目標	現代社会の出来事を多角的・公正に理解・判断し、その課題をみんなで解決していく礎となる総合的な力（知識、思考力、判断力）を養う。ニュース時事能力検定取得を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	日々の重要ニュースについて、その背景に含まれている問題点、社会的な意味、今後の見通しなどを考えることができる。	学習したことを基に、現代の政治的・経済的分野における事象を分析することができるか。	日々の重要なニュースをテーマに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる	社会事象についてメディアなどから必要な情報を読み取ることができる。	身の回りの出来事や社会事象から課題を見いだすことができる。	ニュースをテーマに主体的に考え、発表し合うことができる。
	B できる	社会事象に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	社会事象について興味を持ち、自身の生活との関りを意識する。
	C する	現代社会に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物	授業・定期考査 提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	政治分野 経済分野 暮らしに関する分野 各種検定対策（漢検・英検）
2 学期	社会環境に関する分野 国際分野 ニュース時事能力検定試験 過去問演習
3 学期	ニュース時事能力検定試験 過去問演習 校内漢字テスト対策

何で学ぶか (教材)

テキスト、問題集 ニュース検定 毎日新聞出版 配布プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ学習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	<i>S</i> 使える 情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	<i>A</i> わかる 情報を適切に収集、処理、発信するための基礎的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
	<i>B</i> できる 情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
	<i>C</i> する 情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができて（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報の活用と情報モラル ビジネスと情報 PCの基本操作
2 学期	ビジネス情報の処理と分析 関数の利用 表、グラフの作成
3 学期	検定対策 過去問

何で学ぶか (教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 PC実習

科目名	子どもの発達と保育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を得得する。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し、発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだし、発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ、主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A わかる 作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだし、表現方法を身につけている。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B できる 作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものに関する基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる意欲を身につけている。
	C する 作品作りや実習の基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	幼稚園実習 子どもの発達の特徴 (発達と乳幼児期の意義・発達と保育環境・児童観と発達観)
2 学期	作品制作と発表会準備 子どもの発達の過程 (子どもの発育・神髄の精神発達・人間関係の発達)
3 学期	作品制作と発表会実践 子どもの生活 (生活と養護・子どもの遊び)

何で学ぶか (教材)

子どもの発達と保育 (教育図書)
学習ノート
プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
実習
講演
グループ学習
作品制作

科目名	音楽演習	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース 保育	
目標	保育・幼児教育で取り扱う教材や、それらを展開するために必要なピアノ演奏技術の基礎を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	大譜表の読み方を理解し、正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポで演奏することができる。	目標を設定し、到達できるまで繰り返し練習することができる。
	正しい姿勢と運指で両手の演奏することができる。	メトロノームに合わせ、正しいリズムで演奏することができる。	練習したことを他と聴きあい、互いに評価ができる。
	正しい姿勢と運指で片手ずつの演奏することができる。	楽譜の読み方と鍵盤の位置を理解することができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習することができる。
	電子ピアノの使用方法を理解できる。	ピアノ演奏練習の必要性を理解し、興味を持つことができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト	授業 実技テスト	授業 実技テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	全訳バイエルピアノ教本 P10～27
2 学期	全訳バイエルピアノ教本 P28～37
3 学期	全訳バイエルピアノ教本 P39～41

何で学ぶか(教材)

全訳バイエルピアノ教本 (全音楽譜出版社)

どのように学ぶか(授業方法など)

個人・ペア練習 1ページごとにチェック

科目名	自己表現	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②子どもの健全な成長に関心をもち、子どもにかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	S 使える ・子どもの発達段階に即したかかわりをする	・子どもが関心を抱くものを作成・表現する	・子どもの発達に関心をもつ
	A わかる ・子どもの発達段階を理解する	・子どもが関心を抱くものを見いだす	・保育に対する関心をもつ
	B できる ・子どもの発達段階に応じた対応を身につける	・子どもの発達段階や興味関心によって個々に応じた対応をする	・子どもに関心をもち、意欲的に子どもとかかわろうとする
	C する ・子どもの発達段階に応じた対応を身につけようとする	・子どもの発達段階や興味関心によって個々に応じた対応をしようとする	・子どもに関心をもち、意欲的に子どもとかかわろうとしようとする
評価方法	・定期考査 ・保育実習	・保育実習	・保育実習

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5月 実習用エプロンの作成 6～7月 幼稚園実習 ・自己紹介 ・施設見学・給食補助 ・リズム・表現遊び
2 学期	8～12月 幼稚園実習 ・リズム・表現遊び ・児童文化財を用いた遊び ・保育参加 ・運動会、発表会の練習補助、見学
3 学期	1～3月 発表会の実践 ・調べ学習 ・学習発表づくり ・グループ発表

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、実習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	<i>S</i> 使える 情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	<i>A</i> わかる 情報を適切に収集、処理、発信するための基礎的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
	<i>B</i> できる 情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
	<i>C</i> する 情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報の活用と情報モラル ビジネスと情報 PCの基本操作
2 学期	ビジネス情報の処理と分析 関数の利用 表、グラフの作成
3 学期	検定対策 過去問

何で学ぶか (教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 PC実習

科目名	看護基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	医療看護を取り巻く現状や基礎的知識・技術を学び、医療従事者を目指すうえで必要な資質の体得と向上を図り、進学への動機づけにつなげる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、その知識・技能を適切に理解・活用している。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、医療看護の意義や役割を理解している。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現することができる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断できる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むことができる。
	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけようとしている。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現しようとしている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 医療看護を取り巻く社会背景 看護・健康・人間 定義の明確化 看護と倫理
2 学期	保助看法における看護の役割 診療と看護 理学療法士について 地域医療における多職種連携
3 学期	対象別看護 看護とコミュニケーション 看護と記録

何で学ぶか (教材)

パンフレット (看護協会、鳥取県) オリジナル教材 授業プリント 映像教材
--

どのように学ぶか (授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習 インタビューによる情報収集

科目名	看護医療研究	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	看護医療福祉の各分野の基礎的事項を横断的に理解し、チーム医療に対する基本的な考え方を身に付け、また他者を思いやり尊重する態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	看護・医療・福祉の各分野に関する知識を身に付け、その意義や社会的役割を理解し日常生活に応用を図ることが出来る。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を理解し、習得した基礎的な技術の他者への応用を図ることが出来る。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し率先して能動的に取り組むことができる。
	A わかる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や社会的役割を理解している。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を考え理解し、基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し意欲的に取り組むことができる。
	B できる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や社会的役割の理解に努められる。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を考え、それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決に意欲的に取り組むことができる。
	C する	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を理解し、深めようとする。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持つことができる。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	チーム医療について (職業調べ) 医療従事者による講和 専門学校出前講座 (岡山医療福祉専門学校) 専門学校出前講座 (洛和会京都厚生学校)
2 学期	赤十字救急法基礎講習受講 看護学生による講和 看護医療福祉時事研究Ⅰ 少子高齢化について
3 学期	介護福祉施設見学および体験 看護医療福祉時事研究Ⅱ 医療用語研究 鳥取看護大学連携授業

何で学ぶか (教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか (授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	化学基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース 看護	
目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	<i>S</i> 使える 化学に関する事物・現象について、基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身につけている。 <i>A</i> わかる 化学に関する事物・現象について、基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身につけている。 <i>B</i> できる 化学に関する事物・現象について、基本的な概念・知識が概ね身につけている。実験・実習の基本的な操作ができる。 <i>C</i> する 化学に関する事物・現象について、基本的な概念・知識がある程度身につけている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。 図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。 図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。 図表やグラフをある程度読み取ることができる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。提出課題を期限内に提出しその質も高い。 グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。提出課題を期限内に提出する。 授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。提出課題を提出する。 授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。提出課題を提出しようとする態度が見られる。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成
2 学期	第2章 物質と化学結合 第3章 物質の変化 1 節 物質と化学反応式 2 節 酸と塩基
3 学期	第3章 物質の変化 3 節 酸化還元反応

何で学ぶか (教材)

実教出版『新版化学基礎 新訂版』 数研出版『四訂版リードLightノート化学基礎』 演習プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	看護医療福祉

目 自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職
標 で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を高める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	A わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	B できる	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
準備	C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は30秒、40秒）、新聞記事を使った意見文（結論→根拠の展開）、テーマ型意見文（400字、600字）、課題文要約
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型意見文・テーマ型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事・出前授業について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ
3 学期	スピーチ（1分間）、テーマ型小論文、課題文型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる、校外体験学習での気付き・感想をまとめる

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材、日本経済新聞をはじめとした記事、医療と安全管理総集版（ニホンミック）、専門学校・大学の過去問題、専門学校の出前授業、職業体験、講演・講座

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演、各種医療体験

科目名	英語表現Ⅱ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	<i>A</i> わかる 言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	<i>B</i> できる 英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	<i>C</i> する 英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	形式主語・無生物主語・自動詞と他動詞 5 文型・使役動詞・知覚動詞
2 学期	助動詞 関係代名詞・関係副詞・副詞・副詞句
3 学期	副詞節・原級・比較級・最上級 パラグラフを書く 英語を発信する

何で学ぶか (教材)

啓林館「Vision QuestⅡHope」

どのように学ぶか (授業方法など)

タブレット教材 グループ学習、ペア学習 個別学習

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
	近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
	文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	[随想] 感性的な表現の読み取り方 [小説 (1)] 小説の基本的な読み方 [評論 (1)] 評論文の基本的な読み方
2 学期	[評論 (2)] 論の展開、論拠、要旨を的確にとらえる。 [小説 (2)] 小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句] 表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう [詩] 詩の構成に沿って、作者の心情をつかむ。
3 学期	[評論 (3)] 論の展開に沿って適切に読み取る。 [評論 (4)] 対比による論の展開を理解する。 [小説 (3)] 長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。

何で学ぶか (教材)

東京書籍『精選現代文B』
東京書籍『精選現代文B 学習課題ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えるとともに、古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを深めることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げることができる。
	A わかる	語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について考えることができる。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるとともに、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げようとすることができる。
	B できる	古文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解しようとする努力ができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	さまざまな古典の文章に親しみ、日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めようすることができる。
	C する	古文を読むために必要な最低限の文語のきまりや訓読のきまりについて理解しようとすることができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈しようとすることができる。	授業を受けるための準備を整え、さまざまな古典の文章に親しもうとすることができる。
評価方法	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文)『竹取物語』『徒然草』『方丈記』 (漢文)『矛盾』『推敲』『画竜点睛』『螢雪之功』『両頭之蛇』『朝三暮四』
2 学期	(古文)『伊勢物語』『百人一首』『枕草子』 (漢文)『太公望』『藺相如』『背水之陣』『赤壁之戦』『竹里館』『涼州詞』
3 学期	(古文)『枕草子』『平家物語』『更級日記』 (漢文)『黄鶴楼』『遊山西村』『雜説』『五十歩百歩』

何で学ぶか(教材)

明治書院『新 高等学校古典B』 数研出版『体系古典文法』 数研出版『体系古典文法 準拠ノート』 尚文出版『新明説漢文』 桐原書店『重要古文単語315』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習(学級単位による授業)

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 生活から課題を発見し，事象を数学化することができる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
基	わかる 複合問題の構成を的確に捉え，適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基	できる 課題に対して適切な公式を選択し，解くことができる。	適切な用語・記号を使い，人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	する 基本的な式を計算したり，公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式
2 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数
3 学期	第6章 微分法と積分法

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『3TRIAL数学Ⅱ』 または『3TRIAL数学Ⅱ+B』 補助プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える 事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
	わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形
2 学期	空間のベクトル 等差数列と等比数列
3 学期	いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法

何で学ぶか (教材)

数研出版 『改訂版新編数学B』
数研出版 『3TRIAL 数学Ⅱ+B』
プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	英語表現Ⅱ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。
	わかる A	言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。
	できる B	英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。
	する C	英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。
評価方法	授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	形式主語・無生物主語・自動詞と他動詞 5 文型・使役動詞・知覚動詞
2 学期	助動詞 関係代名詞・関係副詞・副詞・副詞句
3 学期	副詞節・原級・比較級・最上級 パラグラフを書く 英語を発信する

何で学ぶか (教材)

啓林館「Vision QuestⅡHope」

どのように学ぶか (授業方法など)

タブレット教材 グループ学習、ペア学習 個別学習

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思考・表現することができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	A わかる 相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本文や基本問題を読んだり、解くことができる。	新出単語や表現について理解し、適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	that節 to+不定詞 分詞構文 形式主語
2 学期	関係代名詞what 過去完了形 使役動詞 関係代名詞の継続用法
3 学期	関係副詞 知覚動詞 仮定法

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication Ⅱ』 数研出版『COMET コメット英単語 プリント』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志	コース 大学進学
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組み追及している。
	<i>A</i> わかる 世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
	<i>B</i> できる 世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件と関連付けながら理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 世界の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか (教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	歴史的思考力を培い、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像を構築する能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	中世社会の成立 武家社会の成長 幕藩体制の確立
3 学期	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか (教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	地学基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に身にいている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	任意提出物を確実に提出する。 グループ活動において、主体的に役割を果たす。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。	課題やワーク等を期限内に提出する。 任意提出物を積極的に提出する。 授業中に積極的に発言する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。 グループ活動に意欲的に参加する。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができています。 私語や居眠り等をしない。 ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 惑星としての地球 第6編 宇宙の構成
2 学期	第2編 活動する地球 第4編 移り変わる地球
3 学期	第3編 大気と海洋 第5編 地球の環境

何で学ぶか (教材)

教科書 (数研 地学基礎 (304)) ワーク (第一 ネオパルノート)
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動 (ポスターセッション等)
--

科目名	芸術演習（音楽）	授業時数	週 2 単位	2 学年
目標	音楽大学の受験に特化し、音楽理論とソルフェージュ等の専門科目に対応できる能力を身につける。			
	コース	研志	コース	大学進学

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	①#♭二つまでの単旋律の聴音と視唱ができる。	伴奏を付けずに、正しい音程とリズムで音楽的な表現で視唱ができる。	学習・練習してきたことを自己評価できる。
基	①音楽の仕組みを理解することができる。 ②#♭一つまでの単旋律の聴音と視唱ができる。	伴奏を付けずに、正しい音程とリズムで視唱ができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習することができる。
準	①楽譜の仕組みを理解することができる。 ②#♭なしの単旋律の聴音と視唱ができる。	伴奏を付け、正しい音程とリズムで視唱ができる。	予習・復習をすることができる。
評価方法	授業 実技テスト 筆記テスト	授業 実技テスト 筆記テスト	授業 実技テスト 筆記テスト

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音符・休符・譜表・拍子・音名 聴音 コールユーブンゲン 新曲視唱
2 学期	音程・音階・和音・調判定 聴音 コールユーブンゲン 新曲視唱
3 学期	聴音 コールユーブンゲン 新曲視唱 楽典演習

何で学ぶか (教材)

教育芸術社 改訂音楽通論 コールユーブンゲン プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

個人又は複数人のレッスン形式
